

Kazuki Hiramine

Race Report

Date : 2017 年 8 月 27 日 Event : Super GT Round 6 Team : JLOC Class : 300 Class

Driver : Dr1 織戸学 Dr2 平峰一貴 Car : Lamborghini Huracan GT3 Circuit : Suzuka

Qualify 1 平峰一貴 P4 Time 1`59.170 Qualify 2 織戸学 P11 Time 1`59.514

Q1 は自身が担当。アウトラップから丁寧にタイヤに熱を与えてアタックラップに入りました。

熱が入った後のグリップ感は非常に良く、4 番手で Q1 を通過することが出来ました。

Q2 を担当した織戸選手も 11 番手で終わりました。決勝のレース距離は 1000km。シーズンで一番長いレース
ディスタンス。予選のポジションはさほど重要ではありません。決勝でいかにミスなく良いペースで走れる
かが、非常に重要なポイントでした。

Race Finished P2

スタート担当は織戸選手。序盤からペースも良く、無線で車とタイヤの状況を伝えてもらっていました。

混戦の中で特に強さを発揮する織戸選手。明らかに相手のペースが速いにも関わらず、出来るだけ長くライ
バル勢を抑えるなどして熱い走りを魅了していました。中盤から終盤にかけて全力で追い上げていました。

自身は最終ステイントを任されて、柔らかめのタイヤで最後までプッシュ。気付けば表彰台圏内争い！

僕らは 4 番手を走っていて、前にいるチームメイトの 87 号車を追いかけていました。そして追いつき、シケ
インでパス。3 番手に浮上しました。その後、前のライバルが脱落し 2 位に浮上し、そのままフィニッシュ！

Summery

Rd6 鈴鹿 1000km を 2 位で終える事が出来ました！メカニックの懸命な作業やピットストップ、ストラテジ
ーも常に良い方向へ進んでいました。最終 Stint を担当する前にモニターで自分たちが表彰台圏内に入れそう
だと思った時は、ここで集中を切らさず常にベストを尽くすんだと！気持ちを強く持ち全力でプッシュして
いました。チームにはチェッカーまでの周回数だけを聞き、その後は無線での会話をやめ、チェッカーまで集
中を切らさず走り切りました。何故かラスト数周はなかなか経験できない冷静さを保っていましたし、肉体的
には余裕を持って終える事が出来ました。人生の中でなかなか経験できる瞬間ではなかったと思います。
ここまで厳しい戦いが続いていただけに、本当に嬉しいです。沢山の応援に心から感謝しております。本当に
有難うございます！次戦も熱い走りします。引続き応援宜しくお願い致します！



